川崎市八ヶ岳少年自然の家

No.１９

２００９．５．１

自然教室実地踏査

今年の施設内の桜の開花日は４月16日で、昨年に比べてちょうど1週間早く花開きました。連日暖かい日が続くので、全ての植物が大慌てで開花を始めているような印象を受けます。とは言え、川崎に比べれば春は1ヶ月遅れてやってくるので、遅い春で短い春になります。その短い春に自然界はその営みを凝縮して営んでいるのですね。

さて、４月2～3日に「自然教室」で９月初めまでに利用予定（前期）の小学校72校、中学校８校の先生方名171名が実地踏査に訪れました。踏査の内容は、宿泊施設の見学と利用の仕方、各ハイキングコース、オリエンテーリングコースの下見、バーベキュー、野外炊飯の実習、ナイトハイクやアストロハウスでの星空観察実習、キャンプファイヤー、キャンドルファイヤーの実施方法、同時並行利用校別の打合せなどを行ないました。熱心な先生方によって、順調に実地踏査の実を挙げることが出来ました。今年も川崎の114校の小学校5年生、51校の中学1年生がやってくる自然教室が始まったわけです。富士見町開発公社が指定管理者として施設の運営管理を受託して４年目、今年も無事業務を遂行できるようにと願わずにはいられません。

所長のひとりごと　１７

三　井　一　則

今年の二十四節気の一つ、穀雨は4月２０日でした。穀雨とは「雨が降って百穀を潤す」ということで、この頃のやわらかい春雨が穀物を潤し育てる候という意味です。雨が穀物の生長に必要なわけで、私たちが生きるためにも必要な恵みの雨になります。

子どもには大きな発達の可能性があります。その可能性を現実のものにするものは、年齢に応じた体験と言ってもよいと思います。どんな優秀なコンピュータでも、情報を入力しなければその性能を発揮できません。子どもにとっての情報は体験なのです。近年、子どもの体験は親や先生に指示されての「させられ体験」や、テレビやパソコンによる間接体験、疑似体験は昔の子どもより多くなっていると思われます。それが悪いとは言いませんが、自発・能動的な直接体験が欠けているように思います。

少年自然の家には子どもたちの宿泊体験活動を通して、このような自発・能動的な直接体験を補う役割があると思っています。

新しい年度が始まりました。子どもたちにとって、穀雨のようになれる少年自然の家の運営を心がけていきたいと思っています。　２００９　５　１

昨年度の実績

平成20年度の利用実績をお知らせします。総利用者数は689団体、実利用者数は31180人、延べ利用者数は89875人でした。内訳は、学校団体は174校、実利用者数22724人、延べ利用者数は67985人。青少年団体は119団体、実利用者4812人、延べ利用者数は13334人。主催事業、自主事業等は24団体、実利用者1231人、延べ利用者数3862人。グループ・家族は280団体、実利用者1420人、延べ利用者数3701人。日帰りは92団体、993人でした。これはトータルで、平成19年度より454人の減でした。平成19年度の利用実績は開所以来最高でしたが、昨年度はそれに次ぐものでした。

＜間伐体験＞

3・4月の事業報告

「自然紀行」3月は7～8日にスノーシューをはいて雪山を歩き、八ケ岳の自然に触れる体験をして頂きました。風邪などで直前のキャンセルが多く、参加者は2名でした。4月は18～19日に高遠の夜桜観賞と小諸の懐古園を見学してもらい、信州の自然と文化に触れていただきました。4月から多摩市民館前発着のバスで送迎することにしました。参加者は10名でした。

＜小諸懐古園の桜＞

「ふじみ星空観察会」地元の方を対象に、毎月1回アストロハウスを公開して行う事業です。毎月の星座を実際の空でたどりながら、解説します。その後、大型天体望遠鏡で各種天体を紹介しました。3月6日と4月3日に実施しました。両日とも天候に恵まれ素晴しい星空散歩が出来ました。特に今年は土星の環が水平になり、環が見えなくなる現象が起こっています。この現象は15年に1回の珍しいものです。参加者は3月は15名、4月は29名でした。

ギョウジャニンニクの芽吹き

八ヶ岳の春は山菜の季節でもあります。美味しい山菜としてよく知られているものにタラノメ・コシアブラ・ワラビなどがあります。写真はギョウジャニンニクの芽で、ちょうど食べ頃の状態です。知る人ぞ知るギョウジャニンニクは、生のまま味噌をつけて食べるとピリリと辛く、ニンニクよりソフトでなかなかの味です。山奥で修行する行者が食べたのでその名がついたそうです。山菜取りの注意としては、似た毒草と間違えない事、来年の為に少し残しておく事が大切です。ギョウジャニンニクはスズランと間違えるケースがあるそうです。（K）

事業紹介 1

当少年自然の家の延べ利用者数は、昨年度は約9万人でした（前ページ参照）。この延べ利用者数というのは、30人の団体が3日間利用すると、3倍して延べ利用者数は90人と数えるのです。それに対して、何日宿泊しようと30人の団体を30人と数えるのが実利用者数です。実利用者数でいうと昨年度は約3万1千人でした。ここでは1泊～5泊まで出来るのですが、ほとんどの利用者が2泊3日で利用していることがわかります。利用者は小学校自然教室が延べで約3万8千人、中学校自然教室は約2万8千人、ボーイスカウト、子ども会などの青少年団体が約1万3千人、グループや家族の利用が約4千人、その他が約7千人になっています。このような利用者を受け入れる仕事を「受け入れ事業」と呼んでいます。また、当少年自然の家が主催して行なう事業を「主催事業・自主事業」とよんでいます。では次号からこれらの事業について紹介することにします。

感想文より

（原文のまま）

こんにちは。先日は課題別活動では、もぐらの穴やしかのたべた木のあとを見せてくださってありがとうございました。私はもぐらの穴を生で見たことがなかったので最初見たときは「アニメで見たように穴がボコッてなっているんだなあ」と思いました。しかの食べた木のあとを見たときは「しかは木までたべるんだ！歯がじょうぶなんだなぁ」と思いました。とても楽しく課題別活動ができました。かぜをひかないようお体に気をつけてください。（小学校5年女子）

アストロメモ 1

今年は国際天文年です。ガリレオガリレイが天体望遠鏡を空に向け、月面のクレーターや木星の衛星を発見してから400年ということで国際天文年が定められました。当少年自然の家のアストロハウスで星を見たり勉強したりした人数は、国際天文年の事務局でカウントされています。さて、今年は7月22日に日本で見られる皆既日食が起こるのも素晴しいですが、土星も面白いのです。というのは土星は30年で太陽の周りを公転し、傾きを変えています。傾きが大きくなると土星の環は良く見えますが水平になると環は見えなくなります。環が消える現象は15年に1回起こります。そして今年がその年になっていますので、天体望遠鏡で見ると環が1本の線のようになり、まるで串団子のように見えます。今年を逃すと次に串団子の土星が見られるのは15年後になります。是非、アストロハウスで土星を覗いてみましょう。

＜串団子の土星＞

催しもの案内

八ヶ岳ふれあいイベント

土曜日、日曜日、祝日にグループ、家族でご利用いただく方を対象に、次のようなプログラムを用意しております。参加費は無料ですが材料費は必要。参加申し込み等、詳しくはお問い合わせください。

★ネイチャークラフト

小鳥の巣箱作り、バードコール作り、白樺クラフト、焼き板クラフトの中から1つを選びます。八ヶ岳での思い出に、自分で作ったものをお土産にお持ち帰りください。

★星空観察

19時～20時まで、アストロハウスで満天の星空を見ながら折々の星座観察と、大型天体望遠鏡での天体観察をします。惑星、星雲や星団などを見ることができます。

＜おきな草＞

八ヶ岳自然紀行

少年自然の家に宿泊して、八ヶ岳の自然、地域、文化への理解を深めてもらえるように、毎月開催しています。４月から多摩市民館前発着の貸切バスで送迎しています。

● 諏訪湖1周ウォークと入笠山登山

周囲16 kmの諏訪湖を、湖面を渡る風を感じながら1周したり、800万株のスズランが満開の入笠山を、途中までゴンドラを利用し登山します。

・６月13～14日

● ホタルと美術館めぐり

山梨県立美術館、諏訪湖周辺の美術館と井戸尻考古館近くの幽玄なホタルを観賞します。

・７月４～５日

● 白駒池と北八ヶ岳ハイキング

秋の気配の濃くなってきた北八ヶ岳の自然に触れたり、満天の都会では見られない星空を観察し、八ヶ岳の自然への理解を深めて頂きます。

・９月12～13日

費用、内容、申し込み方法等、詳細については、ホームページをご覧になるか、お問い合わせください。

あとがき

指定管理受託４年目に入りました。職員の異動もあり、気持ちを新たに新しい年度に取り組みます。また、椎茸の菌植え込み体験、Ｈα フィルターによる太陽面の観察体験などを新たに活動プログラムに追加し、更なる充実した活動をして頂こうと気を引き締めて準備しております。

川崎市八ヶ岳少年自然の家
〒399-0101 長野県諏訪郡富士見町境字広原
12067-４８２
℡　０２６６－６６－２０１１
Fax０２６６－６６－２０１４
ホームページでも情報をお伝えしています。
http://www.kawasaki-yatugatake.jp/
指定管理者　（社）富士見町開発公社